



Comfortable Runabout Vehicle

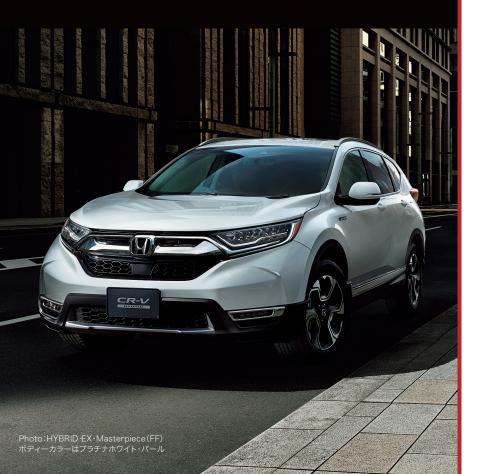
Press Information 2018.8.30



CR-Vとは

日本で生まれ、 世界が鍛えた、 No.1 SUV

*2016年販売実績。Honda調べ



Comfortable Runabout Vehicle.

CR-Vは、名前の由来通り、生活のあらゆるシーンを

快適に自由に走り回る移動体をめざして1995年に誕生しました。

セダンの快適性、ミニバンのユーティリティー、高い機動性を併せ持つ一台は、

たちまち絶大な支持を得て、日本に「SUV」というジャンルを確立。

同時に、北米や欧州、アジアなど、世界各国へ活躍の場を広げ、

グローバルカーとしての歩みを始めました。

以来、4代にわたって、SUVの新たな価値を提案し続けてきたCR-Vは、

Hondaを代表するグローバルカーとして、世界中の国で愛され、

2016年にはSUV世界販売台数No.1*を達成するなど、

いまやトップブランドとして高い地位を築いています。

そして、先行して発売された世界各国で数々の栄誉ある賞に輝くなど、

ご好評をいただいている新型CR-Vがついに日本にも上陸します。

その実力に、どうぞご期待ください。

*2016年販売実績。Honda調べ



初代 1995~2001



2代目 2001~2006



3代目 2006~2011



4代目 2011~2016

2016年販売実績

北米:43万台 中国:19万台 欧州:5万台

アジア・大洋州:5万台

Honda調べ

●米国で権威のある賞の一つである「MOTOR TREND」をはじめ、 世界各国でさまざまな賞を獲得



Motor Trend's 2018 SUV of the Year® ※米国仕様車に対する評価となります。



開発責任者 永留 高明(ながどめ・たかあき) (株)本田技術研究所 主任研究員

1986年、(株) 本田技術研究所入社。 初代NSX、初代US オデッセイ、エリシオン、初代RDXなどのBODY設計を担当 し、2012年11月から5代目CR-VのLPL (開発責任者)を務める。

趣味はドライブ、野球観戦。愛車はCR-Z、 FIT。

守る。打破する。極める。立ち返る。 その先にこそ、CR-Vのあるべき姿があると考えました

CR-Vは、いつでも、どこでも、自由で快適に走り回ることができるクルマです。

同時に、SUVカテゴリーにおいて、販売台数世界一*になるなど、支持されているブランドでもあります。
そのようなクルマのフルモデルチェンジは、世界中にいらっしゃるお客様の期待を超えるものでなければなりません。

そこで、開発にあたり、CR-Vが守り続けるべき価値とは何か。打破すべきものとは何か。極めるべき強みとは何か。 立ち返るべき原点とは何かを、徹底して考えることから始めました。そうして浮かび上がってきたCR-Vらしさ、 つまりCR-Vの本質価値を見極め、全方位にわたって進化させていきました。

今回のモデルチェンジでは新世代プラットフォームに刷新し、「SPORT HYBRID i-MMD」を搭載した ハイブリッド車を新たにラインアップ、同システムとして初めてリアルタイムAWDを採用しました。 一方で、ガソリン車には3列シート仕様を設定し、多人数乗用ニーズに応えています。

また、これらに加えて、注力したところである、安心感と力強さを増したスタイリングや、飛躍的に質感を高めたインテリア、 欧州各地で鍛え上げたダイナミック性能なども、ぜひとも、ご確認いただきたいポイントです。

グローバルカーとして世界中のお客様の多種多様なニーズを満たすべく、

鍛え上げた新型CR-Vは、世界中のお客様の満足を超えて、感動をもたらすクルマに進化したと自負しております。 街乗りも、オフロードも楽しめるこのクロスオーバーSUVが、

日本の皆様の暮らしを、もっと快適に、自由に、広げていくことを願ってやみません。

*2016年販売実績。Honda調べ

CR-Vらしさを感動レベルまで鍛え上げ、次世代SUVのベンチマークを

CR-Vが守り続けるべき価値とは。打破すべきものとは。極めるべき強みとは。立ち返るべき原点とは。

剣道などで用いられる言葉「守・破・離(しゅ・は・り)」と、原点回帰の「帰」をキーワードに、

ひたすら問い続けることで見えてきた「CR-Vらしさ」。この本質価値を全方位にわたって進化させることで、

世界中のお客様に感動をもたらす、次世代SUVのベンチマークをめざしました。

Benchmark Next Generation SUV



CR-Vが 守り続けるべきこと

高い実用性

- クラストップ*1の低燃費を 実現したハイブリッド車
- 全方位、視界良好 P21
- 用途に合わせて 自在に使える広々空間
- サイズアップしながら、 取り回しの良さはそのままに P21
- 乗るたびに実感する、優れた乗降性

破

これまでのCR-Vを超える、 新たな魅力

高い質感と力強さ

- 安心感と力強さを 融合したスタイリング
- いつでも、どこでも、誰が 乗っても、安心して楽しめる P6 新ダイナミックパフォーマンス

営住

CR-Vの強みを いっそう進化させたもの

快適な乗り心地

- ◆ クラストップレベル*2の空間効率、広々快適キャビン
- ●ドライブフィールを高める 静粛性
- みんなで乗れる、3列シート仕様(7人乗り)

帰

SUVの原点に立ち返り、 鍛え上げたもの

タフな走破性

- SPORT HYBRID i-MMDと リアルタイムAWDの融合に P14 よる優れた旋回性能
- 雪上走行時の安心感が 大幅アップ
- 不整地路などの 走行時も頼もしい、 P18 ゆとりのロードクリアランス

『守・破・離』言葉の由来



剣道や茶道などで、 修業における段階を示したもの 守:師や流派の教え、型、技を忠実に守り、確実に身につける基本の段階

破:他の師や流派の教えについても考え、良いものを取り入れ、心技を発展させる応用の段階

離:一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる独自性の段階

「SPORT HYBRID i-MMD」を搭載したハイブリッド車と、VTEC TURBOを搭載したガソリン車ともに、FF車と4WD車をラインアップ。 さらに、ガソリン車には、3列シート仕様(7人乗り)を新たに設定しています。

CR-V			ハイブリ	リッド車		ガソリン車					
					Photo:HYBRID EX・ Masterpiece (FF) ボディーカラーは ルーセブラック・メタリック	Photo:EX(FF/5人乗り) ボディーカラーは ミッドナイトブルービーム・ メタリック					
			PORT HYBRI	intelligent Multi-Mode Dr	ive	YTEC TURBO					
		2.0L ア	トキンソンサイクル	DOHC i-VTEC		1.5L 直噴VTEC FF	TURBO エンジン 4WD				
燃料消費率	燃料消費率		(WLTC=+)	JC08 _{E-F}	WLTC						
詳細:ハイブリッド車 P10 ガソリン車 P12		JC08== 25.8km/L	21.2 _{km/L}	25.0 _{km/L}		JC08 モード 15.8 km/L (EX/5人乗り)	JC08モード 15.0km/L (EX、EX・Masterpiece/5人乗り)				
電動機(モーター)	最高出力		135kw [184PS]	/5,000-6,000rpn	n						
詳細:ハイブリッド車 P10	最大トルク	3	3 15 N∙m[32.1kg	f·m]/0-2,000rp	m						
エンジン	最高出力		107 kW[145	PS]/6,200rpm		140 kW[190PS]/5,600rpm					
詳細:ハイブリッド車 P10 ガソリン車 P12	最大トルク		175 N∙m[17.8k	gf·m]/4,000rpm		240 N·m[24.5kgf·m]/2,000-5,000rpm					
2列シート仕様 (5人乗り)		•				•	•				
3列シート仕様 (7人乗り)		_	_	_	_	•	•				



Dynamic Performance

欧州で鍛え上げた 走りの実力



●大径18インチタイヤ

P9
■ドライバーの意思に応える
リニアで軽快なステアリングフィール
●デュアルピニオン可変ギアレシオEPS
●VGR(可変ステアリングギアレシオ)
●アジャイルハンドリングアシスト
●制動力とブレーキフィール
●減速セレクター

P10
■ Powertrain
専用チューニングを施し、より上質になった「SPORT HYBRID i-MMD」。

Honda初、リアルタイムAWDにも対応

•クラストップ*¹の低燃費と3.0Lエンジン*² 並のトルクを両立(ハイブリッド車)

•「SPORT HYBRID i-MMD」概要

•「SPORT HYBRID i-MMD」の
3つのドライブモード

P12 VTEC TURBOをさらに高出力化し、 軽快な走りを実現



Comfortable

突き詰めた快適さと 使いやすさ

P18 Package Concept 空間効率にも優れた、 広く快適な乗員スペース

2] ■ 広く快適な乗員空間を追求した、2列シート仕様

●2列シート仕様の寸法と荷室容量

●広く快適なリア席空間

●リアシートのダイブダウン機構

•上下2段階で調節可能なカーゴルーム

P2○ ■ 2列シート仕様と同じボディーサイズで 3列シート仕様を実現

•3列シート仕様の寸法と荷室容量

●座り心地の良い3列目シート

●2列目タンブルシート

•シートアレンジ

●上下2段階で調節可能なカーゴルーム

●良好な視界

最適なアイポイント

ブラインドスポットインフォメーション

[○]22 ■ 強みを、さらに強く。 磨き上げた使い勝手の良さ

センターコンソールボックス

●コンソールカップホルダー

●フロントドア・リアドアポケット

●USBジャック

乗り降りのしやすさ

Design

力強さと洗練を高次元で融合

P23 **Exterior Design Concept** 力強く、美しく、安心感のあるデザインを追求

P24 ■ トレッド、ホイールベース、 ロードクリアランスを拡大し、 一目見て感じられる力強さを表現

•フロントビュー

●サイドビュー

●リアビュー

□25 ■ 全身に息づくSUVとしてのダイナミズム

●LEDヘッドライトなど

●全周を覆ったガーニッシュ

●18インチアルミホイール

•ルーフレール

•クロームメッキモール

シャークフィンアンテナ

テールゲートスポイラー

16 Interior Design Concept

力強さの中にも、細部にこだわり上質感を演出

P27 ■ 質感の高さと仕立ての良さが 随所に感じられるインテリア

●前席空間

●素材のコントラストで魅せるインテリア細部

●本革シート

•ファブリックシート

P28 Color

あらゆるシーンで映える プレミアムなカラーラインアップ

●ボディーカラー

◆インテリアカラー

•Advanced Equipment P29-30

- ●ハンズフリーアクセスパワーテールゲート●運転席4ウェイ電動ランバーサポート
- ●運転席8ウェイパワーシート
- ●ドライビングポジションシステム
- ●運転席&助手席シートヒーター
- 連転席&助手席シートピーター電動パノラミックサンルーフ
- エレクトリックギアセレクター電子制御パーキングブレーキ
- ◆オートブレーキホールド機能◆先進のメーターシステム
- ●ドライバー注意力モニター

高い安心感と軽快な走りを支える基本骨格

•1.5L 直噴VTEC TURBO エンジン

●全開加速ステップアップシフト制御

●4WDの駆動力配分をメーター表示

上質なドライブフィールを獲得

•アクティブサウンドコントロール

レーシングカー開発施設で

Honda初「SPORT HYBRID i-MMD」にも搭載

「SPORT HYBRID i-MMD×リアルタイムAWD」

バルブオーバーラップ制御

P]3 ■ リニアな加速フィールを実現する トランスミッション

直噴システム

•G-design Shift

●トルクコンバーター

P14 リアルタイムAWDが進化。さらに、

●リアルタイムAWD概要

静粛性を突き詰め、

•風切り音の低減

P16 • Aerodynamics

•優れた空力性能

シャッターグリル

●高いボディー剛性

超ハイテン材の採用

•インナーフレーム骨格構造

リアダンパー取付部の剛性向ト

Body

磨き上げた空力性能

●ロードノイズなどの低減

•CVT

P15 • **NVH**

●電動ウェイストゲート付ターボチャージャー

- ■Honda SENSING P31
- Safety P32

■主要装備 | 主要諸元 | 環境仕様 P33

Dynamic Performance >> Concept

どんな場所でも、どんなシーンでも、 誰が乗っても、快適で安心して楽しめるクルマを目指して

5代目CR-Vの開発にあたり、チームがダイナミック性能の目標に掲げたのは「ワンモーション・コンセプト」。

それは、3つの意味での"ワンモーション"をドライバーに提供することを目指しています。

その実現のため、新世代プラットフォームに刷新し、

ボディーやシャシー、サスペンションのセッティングなど、細部にわたり徹底的に磨き上げました。

〈ワンモーション・コンセプトが目指した3つの価値とは〉

1. どんなシーンでも、誰が運転しても、一貫して安心感のある挙動を発揮すること

●世界のどんな道をどんなドライバーがどのように運転しても、

変わることのない優れた操縦安定性とフラットで快適な乗り心地の両立

2. さまざまなクルマの挙動を、一連のスムーズな動作とすること

- ●ステアリング操作から車体のロール、旋回までをひとつのスムーズな挙動とする旋回性能
- ●ブレーキ操作から減速、車体の姿勢変化、停車までをひとつの挙動に収めるブレーキフィール

3. ドライバーのイメージと、クルマの挙動が一体であること

- ●アクセルペダル操作、加速、エンジンサウンドの3者が一体となった、ドライバーの感性に忠実なドライバビリティー
- ●ステアリングを切った分だけ曲がり、切り返しや切り増しといった操作の手間を軽減するリニアなステアリングフィール

One Motion Concept

Dynamic Performance >> Story

多種多様な魅力を身につけ、 世界中のお客様にお届けするために

世界各国でお乗りいただいているグローバルカーとして、

CR-Vには、特定のお客様だけでなく、多くのお客様に喜んでいただくことが求められます。

そこで、5代目CR-Vは、新世代プラットフォームを採用し、基本骨格から大きく進化。

そのうえで、世界中の多種多様なニーズに応えていったのです。

例えば、多人数乗用とディーゼルエンジンへのニーズのある東南アジア地域では、

3列シート仕様とディーゼル車をラインアップ。

また、中国では、ハイヤーとしての需要を受けてリア席の快適性を向上させたほか、

ハイブリッド車を設定し、厳しい環境規制にも対応しました。

そして、ダイナミック性能においては、過酷な道路環境が揃う欧州各地で鍛え上げました。

オーストリアの最高峰グロースグロックナーでは、標高3.798mの鞍部を越えていく欧州屈指の山岳道路で、

重量のあるトレーラーを牽引しながら登坂性能と下りのブレーキ性能を追求。

スペインのグラナダでは、エンジンに負担のかかる高温・乾燥した気候下での登坂性能をテスト。

アウトバーンやニュルブルク近郊では、高速走行時においても、

路面の凹凸や横風といった外部の影響をいなせるよう、足回りのセッティングを煮詰めていきました。

また、いついかなる時でも、ドライバーが自車の走行速度を体感として把握できることが安心感のあるドライビングに

つながると考え、アクセルペダル操作にレスポンス良く加速し、加速とエンジンサウンドが

一体になるようチューニングすることで、感性にリニアなドライバビリティーをつくりあげていきました。

このように、世界中のシビアかつ多様な要求をひとつひとつ満たしながら、

5代目CR-Vは、その実力を磨き上げていきました。



オーストリア:グロースグロックナーでは、重量物を牽引しての 登坂性能とブレーキ性能を鍛えた



スペイン:グラナダでは、エンジンに厳しい高温環境下での 登坂性能をテスト



ドイツ:ニュルブルク近郊では、ハイブリッド車の 新たなドライバビリティーをつくりあげていった



路面の凹凸からくる振動を一度で収束させるしなやかな足回りを追求し、乗り心地を向上 One Motion

高い操縦安定性と乗り心地を両立するリアサスペンション

リアにはマルチリンク式サスペンションを採用。 すべてのアームを高剛性のサブフレームに取り 付ける構造とし、横力によるトーイン特性を最適 化。高い操縦安定性を発揮します。また、段差乗 り越え時などの前後方向の入力に対しては、液 封コンプライアンスブッシュで微細な振動も吸 収し、優れた乗り心地を実現しています。





スペース効率に優れたフロントサスペンション

フロントには、マクファーソン・ストラット式サスペンションを採用。L型ロアアームと高剛性サブフレームを組み合わせたことで、高い接地点横剛性を確保し、ジオメトリー変化の少ないリニアなハンドリングを実現しました。また、液封コンプライアンスブッシュも採用しています。

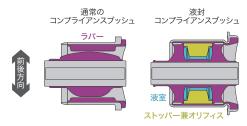
状況に応じて最適な減衰特性を発揮する振幅感応型ダンパー

フロント、リアとも、ダンパーに振幅感応型ダンパーを採用しました。ダンパー内部のピストンに、ストロークの小さい時にのみ開くサブバルブを設け、ピストンスピードが同じであっても小さな動きの時は減衰力の発生を低く抑える構造となっています。これにより、大きなストロークのときは強い減衰力により安定した姿勢を保ち、小さなストロークのときは弱い減衰力で振動を吸収するということが可能になり、操縦安定性と乗り心地を高い次元で両立させることに寄与しています。

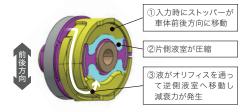
上質な乗り心地を実現する液封コンプライアンスブッシュを採用

フロント、リアともにコンプライアンスブッシュを液封タイプとすることで、低動バネ化と高い減衰特性を両立。段差乗り越え時などに大きな入力があってもショックを軽減し、振動の収まりを向上させ、「ごつごつ」「びりびり」といった不快な周波数の振動を軽減します。

■液封コンプライアンスブッシュ構造説明図



■減衰力発生メカニズム説明図



リアサブフレームを、 フローティング構造化

サスペンションからの振動入力を効果的に低 減。上質な乗り心地に寄与しています。



コーナリングの安定感と操舵性を 高める大径18インチタイヤ

路面との接地面積が大きく、優れたグリップ力でコーナリングの安定感、ハンドリングの応答性を向上させる235/60R18の大径タイヤを採用しています。

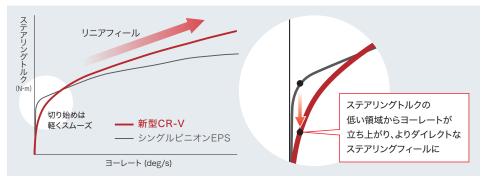


ドライバーの意思に応えるリニアで軽快なステアリングフィール One Motion

ダイレクトなステアリングフィールをめざしたデュアルピニオン可変ギアレシオEPS

ステアリングの回転を直線方向の動きに変換するピニオンを、入力側とアシスト側の2ヵ所に設置することで、俊敏なレスポンスとなめらかな操舵感を高い次元で両立するデュアルピニオン可変ギアレシオEPS。さらに、新型CR-Vでは、ステアリングギアボックスのマウントリジッド化やステアリングコラムシャフトの大径化により剛性を高め、よりダイレクトなステアリングフィールを獲得しています。

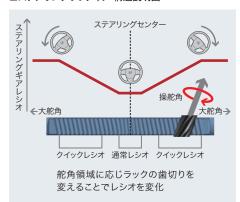
■ステアリング特性イメージ



クイックな操作性をもたらすVGR(可変ステアリングギアレシオ)

ステアリングの操作量に応じてタイヤの切れ 角が変化するVGR(可変ステアリングギアレシ オ)を採用しました。ステアリングの切り始めを スムーズに、大舵角時はクイックなレシオ設定 としてロック・トゥー・ロックを3.1回転から2.3 回転に減少。この結果、高速走行での車線変更 などはより滑らかで安心感のあるステアリング フィールを獲得し、低速走行ではきびきびとし た旋回性や車庫入れ時などの容易な取り回し 性を実現しています。

■ステアリングラックギア 構造説明図



常用域でのハンドリング性能を向上するアジャイルハンドリングアシスト

車両の横すべり時など限界領域で作動する VSAに加え、限界領域の手前で回頭性やライントレース性、緊急回避時のより確かな操縦性に貢献するアジャイルハンドリングアシストを採用しました。操舵角や転舵速度からドライバーが意図する走行ラインを推定し、四輪のブレーキを独立制御して車両挙動をコントロール。ワインディングでのスポーティーな走行やすべりやすい路面でのスムーズな運転を支援します。

優れた制動力と リニアなブレーキフィール

大径ディスクブレーキ (フロント: ベンチレーテッド ϕ 320mm*/リア: ϕ 310mm)を採用。ドライな路面から雨や雪のシーンまで、優れた制動力を発揮します。さらに、ペダルストロークのショート化や電動ブレーキブースターの採用 (ガソリン車のみ) などにより、応答性が良くリニアなブレーキフィールを獲得しています。

*ハイブリッド車。ガソリン車は、\$315mm

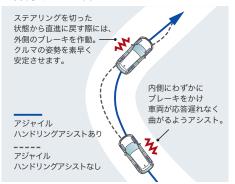


ベンチレーテッドディスク (フロント)



Honda車 国内初採用 電動ブレーキブースター (ガソリン車のみ)

■車両挙動イメージ図



手元で減速度が操れる、 減速セレクター*(ハイブリッド車)

ステアリングを握ったまま扱え、アクセルオフ時の減速度を4段階に変更可能。旋回や右左折の手前、降坂路、前走車との車間をあけたい時などに効果を実感できます。また、ガソリン車にはパドルシフトを採用しています。

*減速セレクターで選択した減速度は、一定条件のもとで自動で 解除、SPORTモードでの走行中は固定となります。





専用チューニングを施し、より上質になった「SPORT HYBRID i-MMD」。 Honda初、リアルタイムAWDにも対応

クラストップ*¹の低燃費と、3.0Lエンジン*²並のトルク、感性と一体になった上質なドライバビリティーを実現 One Motion

エンジンは主に発電に徹し、幅広い領域を モーターで走行する「SPORT HYBRID i-MMD」は、低燃費とともに、V6 3.0Lエン ジン*2並のトルクを発生し、力強く滑らか な加速を実現。さらに、欧州での走り込みと 緻密なチューニングを施すことにより、ドラ イバーの感性にリニアで上質なドライバビ リティーも追求しました。

燃料消費率(国土交通省審査値)

JC08_{E-K}

WLTC **

市街地モード*3 21.0km/L(FF) FF **25.8**km/L FF **21.2**km/L 郊外モード*3 22.1km/L(FF) 4WD **25.0**km/L 4WD **20.2**km/L 高速道路モード*3 20.7km/L(FF)

※燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法 (急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。

■2.0L アトキンソンサイクル DOHC i-VTEC エンジン

熱効率に優れるアトキンソンサイクルをHonda独創 のVTEC(可変バルブタイミング・リフト機構)+VTC (連続可変バルブタイミング・コントロール機構)で 実現した2.0L アトキンソンサイクル DOHC i-VTEC エンジンを採用しています。

〈走行用モーター〉

135kW[184PS]/5.000-6,000rpm

最大トルク **315N・m**[32.1kgf・m]/0-2,000rpm

〈エンジン〉

107kW[145PS]/6,200rpm

最大トルク **175N・m**[17.8kgf・m]/4,000rpm





「SPORT HYBRID i-MMD」の要となる、小型・軽量 で高トルク・高出力を実現したモーター。

- *1 2018年8月現在。2.0L以上のクラスのSUV(ハイブリッド車)。Honda調べ
- *2 Hondaのこれまでの、V6 3.0L車の最大トルクとの比較。Honda調べ
- *3 WLTCモード: 市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード 市街地モード: 信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定 郊外モード: 信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定 高速道路モード: 高速道路等での走行を想定

■新型CR-Vのドライバビリティーイメージ



■エンジン直結クラッチ

の高効率運転を最大限に活かします。

高速クルージング時にエンジンの出力軸を車輪へ直

結するエンジン直結クラッチ。アトキンソンサイクルで

■IPU(Intelligent Power Unit)

小型・高出力密度のリチウムイオンバッテリーと制御 用ECUなどをコンパクトにレイアウト。そのIPUをカー ゴルーム下に収めることで広く快適な空間を実現し ました。(特許出願中(2018年8月時点))



■PCU(Power Control Unit)

2つのモーターをコントロールし、電圧や電流を自 在に操る「SPORT HYBRID i-MMD」の頭脳である PCUを、トランスミッション上にコンパクトに搭載しま した。



「SPORT HYBRID i-MMD」の優れた燃費 性能と、前後輪の駆動力配分を緻密に制御 する「リアルタイムAWD」ならではの頼もし い走破性を、高次元で両立させています。 (詳細:P14)











┃ 走行状況に応じて、3つのドライブモードをシームレスに切り替えることで、高効率な走行を実現

モーターによる駆動を基本としながら、必要に応じてエンジンを始動する「SPORT HYBRID i-MMD」。 走行状況やドライバーの意思を考慮してエンジン/モーター/バッテリー 等を制御し、3つのドライブモードから最適なものを選択。乗用域から高速クルージング、スポーティーな走行領域まで、低燃費かつ爽快なドライビングをお楽しみいただけます。

■走行モード詳細説明図

EVドライブモード

発進時など、エンジンの効率が悪い領域での走行時や、高速走行時でもバッテ リー残量の多い場合には、リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電気エネル ギーによって走行用モーターを駆動。ガソリンを使わずに走行します。

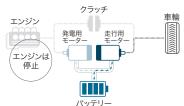


停車中はエンジン停止*。

*バッテリー充電状況によっては エンジンを始動させます。

100km/h

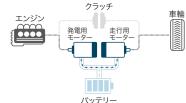
20km/h



ハイブリッドドライブモード*

高負荷での走行時やバッテリー容量が少ないときには、エンジンの高効率領域 を使って発電用モーターを駆動。発電した電力を走行用モーターへ供給し、低 燃費で力強い走りが可能です。





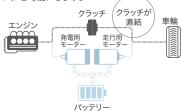
エンジンが車輪を駆動

機械的なエネルギー ………… 電気的なエネルギー チチチ

エンジンドライブモード*

高速クルージング時は、エンジン直結クラッチを締結して出力軸と駆動軸を直 結。高速クルージングに適したギアレシオと、アトキンソンサイクルでの高効率 運転により、低燃費でのクルージングを可能にします。





*走行状況に応じてバッテリーへの充電や、バッテリー電力からのアシストを行います。

EVドライブモード

■SPORT HYBRID i-MMDによる走行イメージ 停車中 発進・加速 EVドライブ アイドリングストップ

エンジンを停止させたまま、 EVドライブモードで発進*。 エアコン等は作動し続けます。

加速はハイブリッドドライブ モードで行います。 *バッテリー充電状況によっては エンジンを始動させ

ハイブリッドドライブモードで発進。 80km/h 60km/h 40km/h

低中速クルージング

モーターが車輪を駆動

EVドライブモード ハイブリッドドライブモード

街中でのクルージング時はEVドライブモードで走行。 バッテリー充電状況に応じて、 ハイブリッドドライブモードと使い分けます。

力強い加速 ハイブリッドドライブモード

エンジンを始動して ハイブリッドドライブモードで 力強く加速。

高速クルージング

エンジンドライブモード

高速クルージング時はエンジンドライブモードで走行。 バッテリー充電状況に応じて、 EVドライブモードと使い分けます。

減速

減速エネルギーを バッテリーに回収しながら

減速。

よりスポーティーな走りをもたらすSPORTモード

新型CR-Vは、「SPORT HYBRID i-MMD」に2つの走行レンジを切り替えら れるシステムを搭載。アクセル操作に応じたリニアな走りをもたらすDレンジ に加え、SPORTモードではより力強いトルク感とスポーティーな応答性を実 現しています。

電動サーボブレーキシステム

より多くのエネルギー回収と上質なブレーキフィールを両立する電動サーボ ブレーキシステム。

EVドライブを優先させるEVスイッチ

ONにするとバッテリーからの電力を使いモーターだけで走行。エンジン音を 出したくない時などに便利です。

※バッテリー残量やエアコン作動状況などによってEV走行できない場合もあります。



VTEC TURBOをさらに高出力化し、軽快な走りを実現

1.5L 直噴VTEC TURBO エンジンに専用ターボチャージャーを採用し、2.4Lエンジンに匹敵する*トルクを実現

シビックを 上回るハイパワー

140kW[190PS]

新型CR-Vは、直噴システムや吸排気デュアルVTCなどを組み合 わせた1.5L VTEC TURBO エンジンを採用。さらに、フィンの枚 数を減らし、フリクションを低減した専用の電動ウェイストゲート 付ターボチャージャーや、圧縮比の最適化などにより、2.4L自然 吸気エンジンに匹敵する*トルクと高回転まで伸びやかなシビッ

クを上回るパワーフィールを獲得しました。 また、過給圧制御を緻密に行うことで、燃費 性能やレスポンスにも優れた特性を発揮し ます。 *Hondaの2.4L自然吸気エンジンとの比較

300 200 出 力 (kW) 3000 5000 低回転域から高回転域まで

フラットトルクで扱いやすい

■エンジン性能曲線図

燃料消費率(国+交通省審查值)

JC08_{₹-}к

15.8_{km/L}

4WD 15.0km/L

EX・Masterpiece/5人乗り)

最高出力 140_{kW[190PS]/5,600rpm} 最大トルク

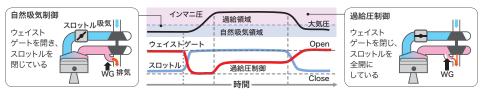
240N·m[24.5kgf·m]/2,000-5,000rpm

※燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法 (急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。

雷動ウェイストゲート付ターボチャージャーを専用セッティングし、 高出力化とレスポンス向上を実現

ターボチャージャーには、応答性に優れた小径タービンを採用するとともに、従来11枚だったフィン を9枚としフリクションを低減。さらにタービンハウジングの排気ポートを最適化するなど専用セッティ ングを施すことで高出力化を図りました。また、過給圧制御の自由度が高い電動ウェイストゲートを採 用。過給レスポンスを高めるとともに、排気ポンピングロスの低減による燃費向 上にも寄与しています。

■ウェイストゲート制御イメージ



インテークマニホールド内の圧力が過給領域へ移行する際、応答性を確保するためにウェイストゲート(WG)を閉じる。 スロットルは全開で固定し、ウェイストゲート制御によって過給圧をコントロールすることで高いレスポンスを実現。

デュアルVTCとの相乗効果で燃焼効率を高める、直噴システム

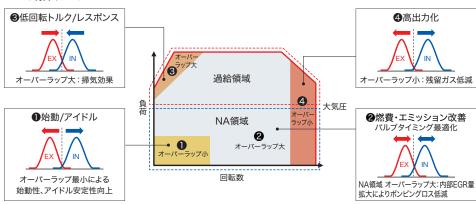
空気のみを吸入し、直接シリンダー内に燃料を噴射す ることで、吸気ポートへの燃料付着を防ぐことができる など燃焼効率の高い直噴システムを採用しました。ま た、高負荷時のピストン温度を下げるクーリングチャン ネル付ピストンなどにより、耐ノッキング性能を向上。 燃焼の安定化が図れるため、デュアルVTCによるバル ブオーバーラップ制御の自由度が増し、走行状況に応 じた最適なバルブ制御に貢献します。



吸排気デュアルVTCによる広範囲なバルブオーバーラップ制御

バルブタイミングの位相を連続可変させるVTCを、吸気・排気の両側に採用。エンジンの負荷と回 転数に応じて、バルブオーバーラップ量を広範囲かつ緻密に制御できます。加速初期など、エンジ ン回転数が低く負荷の大きい領域ではオーバーラップ量を大きくし、掃気効果を高めることでトル クとレスポンスを向上。全開加速時など高回転数で負荷も大きい領域では、オーバーラップ量を小 さくして残留ガスを低減することで出力を高めます。

■VTC制御イメージ



リニアな加速フィールを実現するトランスミッション

パワフルな加速と静粛性を両立したCVT

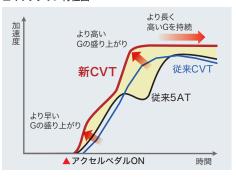
VTEC TURBOの強力なトルクを受け止める大容量 骨格のCVT。ワイドな変速比幅とするとともに、アク セルペダル操作にリニアな加速Gを生み出すHonda 独自の変速制御「G-design Shift」を採用し、ターボ ラグを感じさせないパワフルな加速フィールを実現 しました。また、ツインダンパーを備えた大容量トル クコンバーターによってスムーズで静粛性に優れた 特性も獲得しています。



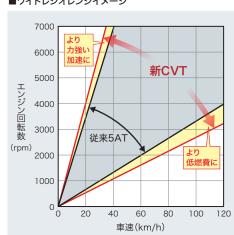
リニアで爽快な走りを生む協調制御「G-design Shift」 One Motion

レシオレンジを従来モデルに対し拡大させ、DBWによるスロットル制御と協調しながら、プーリー 作動油圧を高精度に制御し、ドライバーのアクセルペダル操作に対する変速レスポンスを向上。 発進時やキックダウン時に、タイムラグの少ない俊敏な加速を実現するとともに、アクセルペダル 操作にリニアで伸びのある加速フィールを獲得しています。

■キックダウン特性図



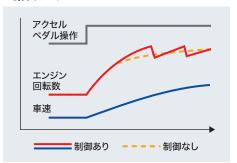
■ワイドレシオレンジイメージ



全開加速ステップアップシフト制御 One Motion

アクセル全開時、エンジンを高回転まで早く到 達させることでダイレクトな加速感を得られま す。さらにエンジン高回転域でのリズミカルな ステップ変速により、エンジンサウンドと加速の 調和ある走りを楽しめます。

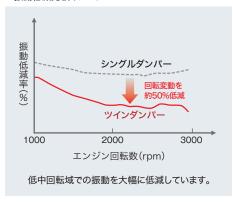
■制御イメージ



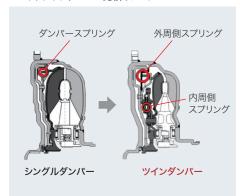
ツインダンパーを採用した大容量トルクコンバーター

低回転時のノイズや振動を打ち消すロックアップダンパースプリングを内周側と外周側にそれぞれ 採用。ターボエンジン特有のトルク変動を吸収し、低中回転域での静粛性を高めています。

■振動低減比較イメージ



■ロックアップダンパー比較イメージ



リアルタイムAWDが進化。さらに、Honda初「SPORT HYBRID i-MMD」にも搭載

雪道などでの旋回もさらにリニアに、スムーズに One Motion

電子制御で後輪の駆動力を緻密かつ素早くコントロールするリアルタイムAWDを、ガソリン車に加え、新たにハイブリッド車にも設定しました。各種センサーにより走行状況を検知し、前輪が空転する前に後輪へ駆動力を伝達するとともに、前後輪の駆動力配分を緻密に行うことで、雪道での発進やコーナリング、登坂などで優れた走



破性を実現します。この知的なAWDシステムを、CR-Vベストにセッティング。アクチュエーター制御の緻密化に加え、ヨーレートセンサーとステアリング舵角センサーのフィードバック制御により、旋回性能を大きく向上。ドライな路面から雨や雪のシーンまで安心で快適な走りを実現しています。

服動力 前輪 油圧制御バルブ 後料

■リアルタイムAWD構造図

コーナー進入時

コーナー進入(アクセルオフ)時はFF走行とし、アンダーステアを抑制してライントレース性を向上。

旋回加速時

ドライバーが加速に転じると、素早く後輪へ駆動力を伝達。路面状況やドライバーのアクセルペダル操作に応じて、前後駆動力を最適に配分します。おだやかな加速では、安心感の高いニュートラルステアとなるよう駆動力を配分。ドライバーが強い加速を求めた場合は、安定性

を確保したうえで、後輪の駆動力がより大きくなるよう制御し、後輪駆動力で旋回していくような弱オーバーステアまで楽しむことができます。

登坂性能を大きく向上

58:42(ハイブリッド車)という優れた荷重配分をベースに前後輪の駆動力配分を最適化し、リアデフのトルク容量を先代モデル比+200N・mとなる550N・mへアップすることで、発進および登坂性能を向上させました。

4WDの駆動力配分を、メーターに表示

前後輪に配分されている駆動力を、リアルタイムに変化するアニメーションによってマルチインフォメーション・ディスプレーに表示。4WDの駆動状態を一目で把握できます。

(特許出願中(2018年8月時点))

■登坂時の駆動力配分イメージ







静粛性を突き詰め、上質なドライブフィールを獲得

さまざまな工夫を重ね、ロードノイズなどを大幅低減

CR-Vとして初めてリアサブフレームをフローティング構造とし、サスペンションからの振動入力を効果的に低減したのをはじめ、リア・マルチリンク式サスペンションのアーム位置最適化や、液封コンプライアンスブッシュの前後サスペンションへの適用、フロアカーペットの遮音層拡大(ハイブリッド車)などにより、ロードノイズなど、低~中周波数の騒音を低減しました。



■静粛性比較イメージ図(クルーズ時) ※Honda調べ

■静粛性を高める主な装備

- ・マルチリンク式サスペンション(リア)
- ・液封コンプライアンスブッシュ(フロント&リア)
- ・リアサブフレームのフローティング構造
- ・フロアカーペットの遮音層拡大(ハイブリッド車)

粗目路(ロードノイズ)静粛性(dB) ■吸・遮音材配置図 ・リアインナー フェンダー (吸音タイプ) ・フロアアンダーカバー

・フロントインナーフェンダー

風切り音を低減し、静粛性を向上

リアエンドをシャープな形状とすることで、後方へ流れる空気の剥離を抑制。さらに、フラットブレードワイパーや遮音機能付フロントウインドウの採用、フロントドアとフェンダーとの見切り部分にカットラインシールを用いるなど、風切り音対策を徹底しました。

■風切り音低減説明図

インシュレーター



感性にリニアなエンジンサウンドを実現。 アクティブサウンドコントロール(ハイブリッド車) One Motion

ハイブリッド車には、エンジンのこもり音低減と加速サウンド最適化を行うアクティブサウンドコントロールを採用しました。またガソリン車には、こもり音低減を行うアクティブノイズコントロールを採用しています。

こもり音低減機能

(ハイブリッド車、ガソリン車)

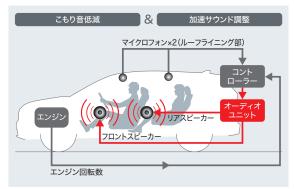
不快な音の周波数を特定し、その逆 位相の音をスピーカーから放射す ることで騒音を打ち消します。

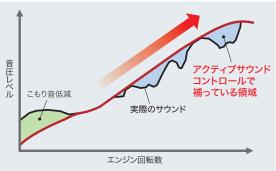
加速サウンド最適化

(ハイブリッド車)

ドライバーのアクセルペダル操作と 加速、加速エンジン音が一体となっ た感性に忠実なドライバビリティー を追求し、エンジンの回転数上昇に 合わせて加速サウンドを調整して います。

■アクティブサウンドコントロールイメージ図





レーシングカー開発施設で磨き上げた空力性能

┃ ダイナミックなスタイリングと燃費性能を両立

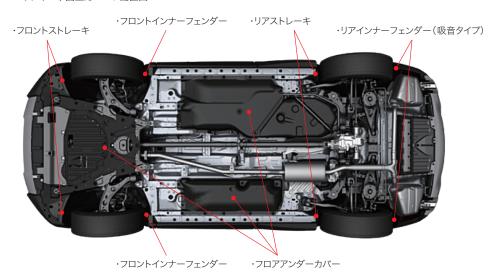
力強いスタイリングと優れた燃費性能を両立させるために空力性能を磨き上げました。リアフェンダーの絞り込み角度や、テールゲートスポイラーの長さ・角度の最適化、リアエンドをシャープな形状にすることなどにより、後方へ流れる空気の剥離を抑制。また、ボディー下部にはアンダー

■空力性能イメージ



カバーを取り付けることで、整流効果を高めました。さらに、Hondaのレーシングカー研究開発の中枢「HRD Sakura」で数百回にも及ぶ風洞実験を繰り返し、優れた空力性能を獲得しています。

■ボディー下面空力パーツ配置図



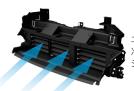
Honda車、国内初シャッターグリルを採用

日本国内のHonda車として初めて、シャッターグリルを採用。 エンジン水温など車両の状態に応じてシャッターを自動的に開閉することで、空気抵抗を低減し、燃費向上を実現します。





通常はシャッターを閉じて、エンジンルーム内の通過風抵抗を低減。



エンジン水温をもとに、 冷却の必要に応じて シャッターを開ける。

高い安心感と軽快な走りを支える基本骨格

ドライバーのステアリング操作にダイレクトに応える高いボディー剛性 One Motion

ドライバーの意思に忠実なハンドリングを実現するために、骨格剛性を追求。CAE解析を駆使するとともに、ハイテン材の増量や効果的な配置、結合構造の最適化などを徹底し、先代モデルより、ねじり剛性を25%、ボディー剛性のウエイト効率を表す指数L.W.I.(Light Weight Index)において20%の効率向上を達成しました。また、フロントバルクヘッドをオール樹脂製とするなど、車体前後を軽量化して低慣性化を図ったほか、走りに寄与する低重心化も追求。市街地はもちろん、高速道路やオフロードでも、高い安心感と上質な乗り心地を提供します。



インナーフレーム骨格構造を採用

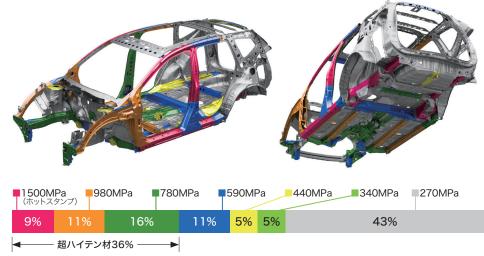
ボディー全体の骨格部材を組み立ててから外板パネルを溶接するインナーフレーム構造を採用。主要なフレームの結合効率を高め強固なボディー骨格を形成することで、補強材を最小限にでき軽量化を実現しました。



超ハイテン材を各所に採用

軽量で強度の高い超ハイテン材(高張力鋼板)をボディー骨格全体の36%に採用。1,500MPa級のホットスタンプ材をフロントピラーに使用することで、強度を保ちながら薄型化しました。また、サイドシルにもホットスタンプ材を使用するなど、必要な強度に応じてハイテン材を使い分けることで、優れた剛性と高い衝突安全性能を持つ軽量ボディーを実現しています。

■ハイテン材適用箇所と使用比率グラフ



リアダンパー取付部の剛性向上

軽快なハンドリングと快適な乗り心地を追求し、 リアダンパー取付部の剛性を向上させました。



Comfortable » Package Concept



空間効率にも 優れた、 広く快適な 乗員スペース ホイールベースの延長やワイドトレッド化、

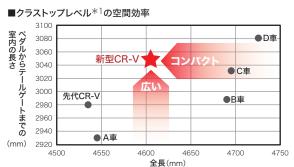
ロードクリアランスの拡大を行うと同時に空間効率を徹底追求。

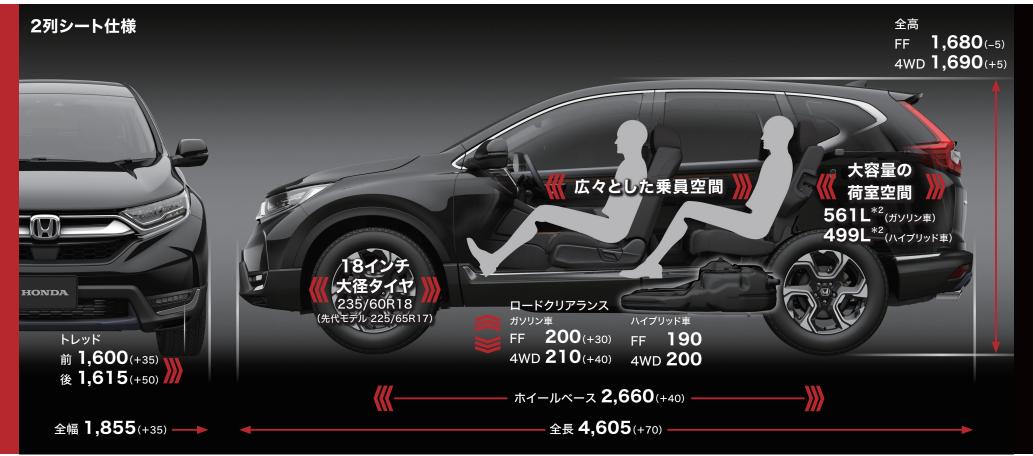
燃料タンクを変形・扁平化し、より前方まで設置するなど、

メカスペースを最小限にし、人のスペースを最大化しました。

そうして、2列シート仕様では広々とした乗員空間と、大容量の荷室空間を創出。

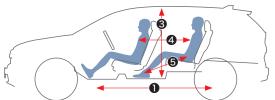
さらに、同じパッケージで、多人数乗用に対応した3列シート仕様を実現しています。

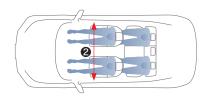




広く快適な乗員空間を追求した、2列シート仕様







- **1**室内長:1.970mm **2**室内幅:1.550mm **3**室内高:1.230mm*1
- ④タンデムディスタンス: +50mm*²(朱代モデル比)
 ⑤後席レッグルーム: +50mm*²(朱代モデル比)

■荷室容量と荷室長

		2名乗車時	5名乗車時	カーゴアンダーボックス
荷室	ガソリン車*4	1,123L	561L	24L
容量*3	ハイブリッド車	1,061L	499L	_
荷室長*2		1,830mm* ⁵	950mm	_

- *1 電動パノラミック サンルーフ装備車は 1,185mm
- *2 数値はHonda測定値
- *3 荷室容量はVDA方式に よるHonda測定値
- *4 フロアボードは下段位置 *5 フロントシート背面から
- テールゲートまでの長さ
- ※イラストと画像は機能説明 のためのイメージ ※画像はガソリン車

広く快適なリア席空間

2列目シートは、先代モデルに対して、シートクッションを 30mm、シートバックを30mm延長し、さらにサイドサポート部 に厚みを持たせてホールド感を高めるなど、座り心地の良さと 見た目にもわかる上質さを追求。タンデムディスタンスの大幅な 拡大ともあいまって、広く快適なリア席空間を実現しています。



※数値はHonda測定値

1アクションで、大空間。リアシートのダイブダウン機構

タンデムディスタンスの拡大や、燃料タンク を変形・扁平化し、フロア高を下げたことなど により、リアシートダイブダウン時は荷室長 1.830mm(先代モデル+250mm)のフラット な空間を実現しています。



1.830mmのフラットな空間 大きな荷物の積載や車中泊も可能です。

■2通りの方法で倒せるリアシート





テールゲート側から:リリースレバーを引き、前方に倒す。 リアシート側から: 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。



左右別々に倒すことも可能 長尺物を積載したいときなどに便利です。

※数値はHonda測定値

上下2段階で調節可能なカーゴルーム(ガソリン車)

ガソリン車は、フロアボードの位置を変更することで、床面の高さを上下2段階で調節可能です。 下にセットすると荷室容量が最大に、上にセットするとシートを倒した面とフラットになります。



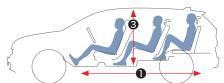
ボードを下にセットした状態 背の高い荷物を積載するときなどに便利です。

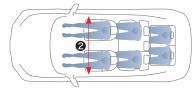


ボードを上にセットした状態 後席を倒せば床面とフラットになります。 耐荷重:100kg ※画像は機能説明のためのイメージ ※数値はHonda測定値

2列シート仕様と同じボディーサイズで3列シート仕様を実現







●室内長:2.520mm ②室内幅:1.520mm ③室内高:1.230mm*1

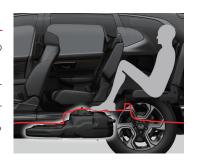
■荷室容量と荷室長

	2名乗車時	5名乗車時	7名乗車時	カーゴアンダーボックス		
荷室容量*2 (フロアボードは下段位置)	936L	472L*3	150L	26L		
荷室長*4	1,800mm* ⁵	1,075mm* ³	355mm	_		

- *1 電動パノラミックサンルーフ装備車は1,185mm *2 荷室容量はVDA方式によるHonda測定値
- *3 2列目シートを最前端までスライドさせた状態 *4 数値はHonda測定値 *5 1列目シート背面からテールゲートまでの長さ ※イラストと画像は機能説明のためのイメージ

座り心地の良い3列目シート

3列目シートは、フロアやルーフといった部位の設計を突き詰め ることで、頭上空間や膝まわり、足もとスペースを確保。例えば、 足もとスペースは、扁平化した燃料タンクをより前方まで配置す るとともに、3列目乗員の足引き性にも配慮してボディーを設計 し、ゆとりを生み出しました。また、シートフィーリングにこだわっ てバネを使用しているほか、リクライニングも実現しています。



2列目タンブルシート

前後に150mmスライド し、フレキシブルにスペー スを調節できる2列目 シート。ゆとりある乗員空 間を実現します。



2列目シートを前にスライドさせた状態



シート全体をはね上げた状態 3列目シートにスムーズにアクセス可能。 ※数値はHonda測定値

簡単操作で、 フラットな荷室

2列目、3列目シートを倒 すと、荷室長1.800mm の広々としたフラットな空 間が実現します。

※数値はHonda測定値



3列目シートを倒し、 フロアボードを上にセットした状態



2列目、3列目シートを倒した状態 長尺物を積載したいときなどに便利です。

〈フラットな荷室にする場合の手順例〉



3列目シートを倒す 背もたれのストラップを引き、 する 前方に倒す。



フロアボードを上にセット 2列目シートを倒す



前方に倒す。



2列目シートを後ろに移動 背もたれのストラップを引き、する

※画像は機能説明のためのイメージ

上下2段階で調節 可能なカーゴルーム

フロアボードのセット位 置を変えることで、床面 の高さを上下2段階で調 節できます。



ボードを下にセットした状態 背の高い荷物を積載すると きなどに便利です。

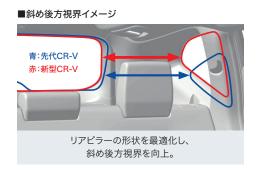


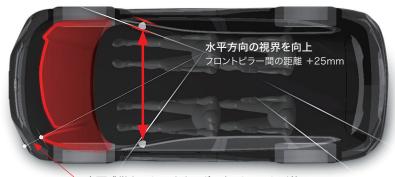
ボードを上にセットした状態 荷物を上下に分けて積載可能。3列目シートを倒せば、 床面とフラットになります。 耐荷重:100kg ※画像は機能説明のためのイメージ ※数値はHonda測定値

良好な視界と先進の装備で、安心感のある走行をサポート

全方位、良好な視界

フロントピラーを先代モデルより後方に配置 し、角度を起こすとともに10mm薄型化し、 110mmに。これにより、フロントピラー間の距 離を25mm広げ、水平方向の視野を拡大しま した。また、車両感覚のつかみやすいボンネット フード形状とすることで、ドライバーから見えな い車体前方部の長さを45mm低減しています。





車両感覚をつかみやすいボンネットフード形状 ドライバーから見えない車体前方部の長さを45mm低減

地上高を上げても、最適なアイポイントはそのままに

ロードクリアランスを先代モデルより+40mm* (4WD車。FF車は+30mm*)としながら、 SUVとして最適な見晴らしの良さを検証し、先 代モデルと同等のアイポイントの高さを守って います。

*ガソリン車の数値



見晴らしの良いアイポイントの高さ (ヴェゼル +60mm)

車線変更時などに後側方のクルマを検知する ブラインドスポットインフォメーション

リアバンパー内側に設置したレーダーにより後側方に接近する車両を検知すると、ドアミラートの インジケーターが点灯し、ドライバーに知らせます。この状態でウインカーを作動させると、インジ ケーターが点滅すると同時に警報音で注意喚起。複数車線の道路や高速道路の合流地点などで の安全な車線変更をサポートします。



■作動イメージ

	車両未検知	車両検知	ウインカー作動	車両離脱
インジ ケーター	消灯	点灯	点滅	消灯
警報音	なし	なし	4 1))) ៥៥៥	なし

強みを、さらに強く。磨き上げた使い勝手の良さ

3つのモードでスマートに使い分け られる、センターコンソールボックス

大型の可動式トレーの位置を変更することで、 3つの収納モードを実現。用途に応じてフレキ シブルに使える新開発のセンターコンソール ボックス。(特許取得済(2018年8月時点))



トレーは通常位置。5.5インチのス マートフォンなど、小物を置くとき に便利。





BOXアクセスモード トレーを後方にスライド。ティッ シュボックスなど、普段は人目に 触れさせたくないものをさっと取



大容量開放モード トレーを取り外し、ボックス後方の 底に装着。小型のハンドバッグな ども収納可能です。



視線移動することなく取り出せる、コンソールカップホルダー

ドライバーが運転操作中、視線を下げることな く自然に取り出せる位置に設定したカップホル ダー。取り間違いのないよう、左右に並べて配 置しました。





サッと取り出せる横並び配置 マグカップにも対応

大容量フロントドア・リアドアポケット

スピーカー位置を上方に配置することで容量 増加を実現したドアポケット。先代モデルより、 フロントは車両前後方向に327mm、リアは同 方向に232mm拡大。タブレットや折りたたみ 傘などの収納を可能にしています。





フロントドアポケット リアドアポケット 単位:mm ()は先代モデル比 ※数値はHonda測定値

フロント・リアにそれぞれUSBジャックを装備

センターコンソールボックス内部に1つ、 後部に2つ、スマートフォンやタブレット を充電できるUSBジャックを装備。後部 のUSBジャックは2.5A出力に対応し、 急速充電も可能です。



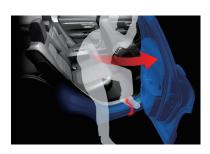
ディスプレーオーディオ連動 USBジャック(1列目)

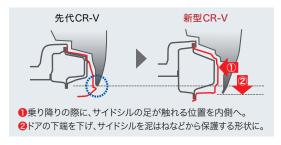


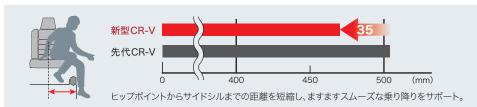
充電専用USBジャック (2列目左右)

乗り降りのしやすさを、さらに向上

後席ドアは、開口角度を85度(先代モデル+6度)、開口幅を1.000mm(先代モデル+100mm)と し、ますます大きく開くドアへ。また、サイドシルの位置を内側にずらし、ヒップポイントからの距離 を短縮するとともに、ドア下端を下方向に伸ばしました。これにより、スムーズな乗り降りの実現に 加え、乗降の際にズボンの裾などがサイドシルに触れて汚れるリスクも軽減。さらに、3列シート 仕様では、後席ドアから3列シートに乗り込む際の一歩目をできるだけ低く踏み出せるよう、リアの フレーム形状を最適化しています。





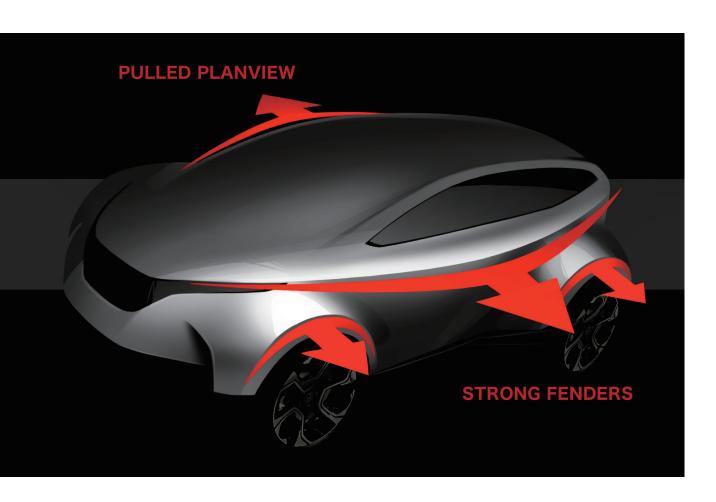


Design > Exterior Design Concept

力強く、美しく、 安心感のあるデザインを追求



ファイナルスケッチ



MODERN FUNCTIONAL DYNAMIC

新型CR-Vの開発にあたり、

エクステリアデザインに課せられたミッションは、

SUVとしての原点に立ち返りながら、

新しいSUVとしての姿を提案することでした。そこで、

「MODERN FUNCTIONAL DYNAMIC」をテーマに

ホイールベースを延長、さらにワイドトレッド化し、

18インチの大径タイヤを四隅にレイアウト。

四肢を大地に踏ん張ったグッドスタンスとするとともに、

大きく張り出した筋肉質な前後フェンダーや、

長く力強いボンネットフード、

ムダなラインに頼らずシンプルに

機能美を表現したサイドビューなど、

全身をうわべでなく、その基本骨格から鍛え上げ、

磨き上げていきました。

そうして、SUVらしい力強く、美しいスタイリングの中に、

確かな安心感を実現。

ここに、次世代SUVの新たなデザインを完成させました。

トレッド、ホイールベース、ロードクリアランスを拡大し、一目見て感じられる力強さを表現

精悍さの中に先進感が光る、フロントビュー

ボディーとの面一化を図ったホイールレイアウトや強く張り出したフェンダーなど、一目見てSUVらしい精悍さを感じさせるフロントビュー。Hマークを中心にグリルとヘッドライトをつなげ、一文字に見せることで先進感やワイド感も表現しています。



筋肉質なフェンダー



Photo: HYBRID EX·Masterpiece (FF) ボディーカラーはプラチナホワイト・パール

骨格の良さが際立つ、サイドビュー

ロングノーズ化し、より筋肉質になったボンネットフードや力強い 前後フェンダーなどにより、SUVとしての逞しさを進化させまし た。さらに、過度に飾り立てることなく、プレスラインを最小限にと どめることで、筋骨隆々とした骨格の良さを際立たせています。



軽快な走りを予感させるリアクォー ターウインドウ



Photo: HYBRID EX(FF) ボディーカラーはルーセブラック・メタリック

CR-Vのアイデンティティーを語る、リアビュー

ヒップアップして、ますます躍動的になったリアビュー。CR-Vのアイデンティティーである縦型のリアコンビネーションランプを踏襲しながら、テールゲート側まで伸ばすことで、ボディーのワイド感を強調するなど、新たな魅力をプラスしました。



Photo: HYBRID EX(FF) ボディーカラーはプラチナホワイト・パール



筋肉質で厚みのあるドア

全身に息づくSUVとしてのダイナミズム

先進性を際立たせる、LEDの輝き

LEDヘッドライトは、LED光源をリフレクターで反射させる構造により、ヘッドライト全体が面として光るデザインを実現。内側に切れ込むようなシャープな形状で、光量が中心に向かってグラデーションで変化していくポジションランプ、そのポジションランプとのコンビネーションでヘッドライト全体を縁取るように光るターンランプとともに、先進の存在感を放ちます。



LEDへッドライト+導光タイプLEDポジションランプ(アクセサリーランプ機能付)



LEDアクティブコーナリングライト



LEDフォグライト



LEDテールランプ



LEDストップランプ

タフな個性を主張する、全周を覆ったガーニッシュ

ボディー下端とホイール アーチの全周を覆ったブ ラックカラーのガーニッ シュは、SUVとしてのタ フさの象徴であり、CR-V の変わることのないアイ デンティティーです。



18インチアルミホイール

特徴的で躍動感あふれる切削デザインとブラックカラーのコンビネーションが、四肢を踏ん張った新型CR-Vのグッドスタンスを強調します。



ルーフレール(タイプ別設定)

ボディーとの統一感が高い一体構造アルミ製ルーフレールを採用。押し出し成形による継ぎ目のない造形に加え、表面のヘアライン処理とクリア塗装によってアルミの素材感を引き立たせ、上質で洗練された見え方としています。



クロームメッキモール

ドアロアガーニッシュには、サイドビューを引き 立てるクロームメッキモールをあしらいました。



シャークフィンアンテナ

シャープな形状の AM/FMアンテナを、 全タイプに標準装備 しています。



テールゲートスポイラー

躍動的なデザインと 空力性能を両立して います。



Design >> Interior Design Concept

力強さの中にも、 細部にこだわり上質感を演出

インテリアは、「Urban BASE beautility*」をテーマに、 芯の通った横基調の造形骨格でタフさと 信頼感を表現しながら、

木目調素材をあしらうなど、目に触れる部位の素材や、 手に触れる部位の触感にこだわり抜き、

質感を大きく高めていきました。

また、視界の良さや車両感覚のつかみやすさを考慮し、 すっきりさせたインストルメントパネル上面のデザインなど、 従来からの強みである使い勝手の良さもいっそう向上。

力強さの中に上質感を演出しながら、

優れた機能性も実現しています。

* beauty + utility 「美しさ」と「使い勝手の良さ」から成る造語





質感の高さと仕立ての良さが随所に感じられるインテリア

逞しさの中に洗練がある、前席空間

インテリアの印象を決定づけるインストルメントパネルは、水平方向に芯の通った逞しい造形骨格とし、SUVらしい力強さと安心感を表現。さらに、上方向にボリュームを持たせながらシンプルな造形とし、下部をすっきりとした形状にすることで、開放感のある視界と車両感覚のつかみやすさ、足もとの広さを実現しました。また、目に触れる、手に触れる部位に木目調素材やピアノブラックのパーツ、ソフトパッド等をあしらうなど、質感や触感の良さを追求しています。



Photo: HYBRID EX · Masterpiece (FF)

LEATHER

タフさと上質さを併せ持つ、立体感のある本革シート

シート表皮とクッション材を一緒にキルティング加工することで、マテリアルに強い立体感を持たせ、シートとの一体感を実現。さらに、機能的なパンチングを全体に施しながら、キルティング部位をパンチングレスデザインとすることにより、ステッチが美しく映える、上質な本革シートに仕立て上げました。



アクセントのあるキルティングパターンでリズミカルな印象に

「柔・硬・艶」。素材のコントラストで魅せる

柔らかさ。硬さ。艶感。各素材を吟味し、その個性を際立たせたうえで、造形を最適化しました。例えば、木目調素材は、木目が持つ奥行きと照り出し感を追求し、削り出したようなマット感を表現。さらに、ステッチパターンを施したドアライニングやピアノブラックのドアオーナメントパネルなど、細部までこだわりました。



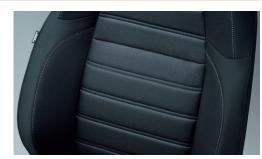




FABRIC

独特の光沢と深みをもつ、仕立ての良いファブリックシート

シート表皮とクッション材を一緒にエンボス加工することで、マテリアルに強い立体感を持たせ、シートとの一体感を実現したファブリックシート。多色の糸を精緻に織り上げて表現したブラックカラーは、独特の光沢と深みを持ち、仕立ての良さを感じさせます。



多色織りならではの奥行きのあるブラック

あらゆるシーンで映えるプレミアムなカラーラインアップ

ボディーカラー



インテリアカラー

HYBRID EX·Masterpiece / EX·Masterpiece

本革

シックで知的な印象の ブラックと、高級感のあ るブラウンを設定。



HYBRID EX / EX

ファブリック

シックで知的な印象の ブラックを用意。



足先で開閉できるパワーテールゲートをはじめ、充実の先進装備

ハンズフリーアクセスパワーテールゲートをHonda車国内初採用(タイプ別設定)

パワーテールゲート機能に、先進のスマートさを付与しました。Hondaスマートキーを携帯した状態で、リアバンパーの下へ足先を入れてサッと引くと、テールゲートが開閉します。さらに、ボタンひとつで開閉中のテールゲートを停止させる機能、テールゲートの開く範囲を任意に設定する機能も搭載しました。



ハンズフリーアクセス

Hondaスマートキーを携帯していれば、足先の動作で、テールゲートを開閉可能。両手がふさがっているときなどに便利です。



ストップ アンド ホールド

開閉中にテールゲートクローズボタンを押すと、テールゲートがその場で停止。天井の低い 駐車場やスペースの狭い場所などでの開閉時 に重宝します。



高さ設定

テールゲートの開く範囲(高さ)を任意に設定できます。設定した高さ を記憶させることも可能です。

4ウェイ電動ランバーサポートを、 運転席に採用

レジェンドなど、高級車に採用されている4ウェイタイプの電動ランバーサポートを運転席に標準装備。前後方向(35mm)に加えて上下方向(80mm)にも調節できるため、さまざまな体格の方にフィット、腰への負担を軽減します。



運転席8ウェイパワーシート

スライド、リクライニング、高さ(前・後)を電動で調節できます。助手席には4ウェイパワーシートをタイプ別設定。



2名分を記憶する ドライビングポジションシステム

運転席の前後スライド/リクライニング/高さ (前・後部)の設定を、2名分記憶・呼び出し 可能です。DRIVER1と2のキーを判別し、記 憶した位置に自動調節する機能付き。



よりスピーディーに、より省電力で 暖める、シートヒーター

運転席と助手席にシートヒーターを装備。 加温範囲を最適化し、高密度で熱線を張り 巡らせることで、消費電力を抑えると同時 に、高い昇温性能を発揮します。



大開口サンルーフやドライブをスマートにアシストする機能も搭載

大開口電動パノラミックサンルーフ(タイプ別設定)

1列目席はもちろん、2列目席にも開放感をもたらす大開口サンルーフ。スイッチ操作で上空の視界 が開け、車内空間を明るく演出します。サンシェード付きで遮光にも対応しています。



先進性と操作性を両立したエレクトリックギアセレクター(ハイブリッド車)

シフト操作をスイッチ式にすることで先進的な見え方を 実現しました。スイッチは、ドライバーが手の届きやすい 場所に集約配置したうえで、ドライブスイッチは斜め前方 へのプッシュ式、リバーススイッチはプル式とするなど、人 間の感覚にマッチした設定としています。



電子制御パーキングブレーキ

スイッチ操作でパーキ ングブレーキをオン/ オフできます。



オートブレーキホールド機能

ブレーキペダルから足 を離しても、停車状態 を保持できます。



多彩な情報を速やかに把握でき、直感的に操作可能。先進のメーターシステム

「瞬間認知・直感操作」を突き詰めました。高精細なTFT液晶を採用し、スピードメーターを中心 に、上部にパワー/チャージメーター*、下部にマルチインフォメーション・ディスプレーを配するな ど、重要性の高い情報を集中的にレイアウト。そのうえで、シンプルなデザインとし、色数を抑えるこ とで、多彩な情報をスピーディーに把握できるよう配慮しました。さらに、マルチインフォメーショ ン・ディスプレーを直感的に操作できるステアリングスイッチも装備しています。

*ハイブリッド車。ガソリン車はタコメーターを装備



ドライバーの注意力を測り、休憩を促す、ドライバー注意力モニターをHonda車国内初採用

ドライバーのステアリング操作に応じて、居眠 り運転や不注意運転を検知。メーター内の運 転者注意力レベルの表示や、警報音とステアリ ングの振動で休憩を促します。



先進の安全運転支援システムHonda SENSINGがもたらす、より高い安心と快適

「誰もが事故に遭わない社会」をつくりたい。その想いでHondaは2003年には世界初の追突軽減 ブレーキを実用化。その後も連綿と続いてきた研究が、この「Honda SENSING(ホンダ センシング)」 を牛みました。検知が難しいとされてきた電波の反射率が低い「歩行者」までを検知する『ミリ波レー

形状を識別する『単眼カメラ』。この異なる特性を 持つ2つのセンサーにより、安心・快適な運転を 支援します。

ダール。そして、車両前方の対象物体の大きさや

Honda



路外逸脱抑制機能

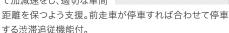
車線を外れそうな際、マルチ インフォメーション・ディス プレーの表示とステアリン グ振動で警告し、さらにクル マを車線内へ戻すようにス テアリングを制御。また逸脱



量が大きいと予測される際はブレーキも併用して、逸脱し ないように支援します。

渋滞追従機能付ACC 〈アダプティブ・クルーズ・ コントロール〉

前走車がない場合は設定 した車速を自動で維持し、 前走車がある場合は自動 で加減速をし、適切な車間



衝突軽減ブレーキ〈CMBS〉

車両や歩行者を検知し、衝突の危険がある場合にマルチインフォ メーション・ディスプレーの表示やブザーで警告。緊急時には、自 動で強いブレーキをかけて衝突回避・被害軽減を図ります。さら に、新型CR-Vでは、夜間の歩行者の認識性能を向上しています。 CMBS=Collision Mitigation Brake System



LKAS 〈車線維持支援システム〉

高速道路など、中・高速走 行時、単眼カメラで車線を 捉え、車線の中央に沿って 走れるようステアリング操 作をアシスト。車線を外れそ



うな際には、マルチインフォメーション・ディスプレーの表示 とステアリング振動で注意を喚起します。

先行車発進お知らせ機能

前のクルマが発進したこと を、ブザーとマルチインフォ メーション・ディスプレー の表示でお知らせします。



誤発進抑制機能

前方に障害物があるにも 関わらずアクセルペダルを 踏み込んだ際、急発進を防 止します。



歩行者事故低減 ステアリング

約10km/h~約40km/h で走行中に車線を外れ、路 側帯の歩行者と衝突しそ うな際、音とマルチインフォ メーション・ディスプレーの



表示で警告。ステアリングも制御して回避操作を支援します。

標識認識機能

走行中に道路標識を認識 してマルチインフォメー ション・ディスプレーに表 示し、安全運転を支援しま す。

LKAS=Lane Keep Assist System



オートハイビーム

前走車や対向車を検知し てハイ/ロービームを自動 で切り替え。良好な視界の 確保に貢献するとともに、 切り替え操作の頻度も低 減します。



■各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。各機能の能力を過信せず、つねに周囲の状況に気をつけ、安全運転をお願いします。

車両をご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みください。各システムは、いずれも道路状況、天候状況、車両状態等によっては、作動しない場合や十分に性能を発揮できない場合があります。■衝突軽減プレーキ〈CMBS〉は、約5km/h以上で走行中に自車との速度差が約5km/h以上 ある前走車両や歩行者、または対向車両(二輪車や自転車等を除く)に対して衝突する可能性があるとシステムが判断した場合に作動し、自動的に停止または減速することにより衝突回避や衝突被害の軽減を図ります。対向車両(二輪車や自転車等を除く)と歩行者に対しては、自車が約 100km/h以下で走行中の場合に作動します。■誤発進抑制機能は、停車時や約10km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジンやモーターなどのパワーシステム出力を抑制し、急な発 進を防止するとともに、音と表示で接近を知らせます。■歩行者事故低減ステアリングは、約10km/h~約40km/hで走行中に、システムが歩行者側への車線逸脱と歩行者との衝突を予測した場合に、ステアリング操作による回避を支援します。運転者のステアリング操作に代わるものではあ りません。運転者が加速やブレーキ操作、急なステアリング操作を行っているとシステムが判断した場合、ウインカーを作動させている場合は作動しません。■路外逸脱抑制機能は約60km/h~約100km/hで走行中に、路外への逸脱またはシステムが路外への逸脱を予測したとき、作動し ます。運転者のステアリング操作に代わるものではありません。運転者が加速やブレーキ操作、急なステアリング操作を行っているとシステムが判断した場合、ウインカーを作動させている場合は作動しません。■渋滞追従機能付ACCは、Okm/h以上で作動します。前方車両に接近しすぎる 場合には、プレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ってください。 急なカーブや加速・減速の繰り返しが少ない、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。■LKAS〈車線維持支援システム〉は、約65km/h以上で作動します。運転者のステアリング操作に 代わるものではありません。運転者がステアリングから手を放した状態や、運転者が意図的に車線を越えるようなステアリング操作をしているとシステムが判断した場合、ウインカーを作動させている場合は作動しません。急なカーブや加速・減速の繰り返しが少ない、高速道路や自動車専用 道路などを運転するときに使用してください。■先行車発進お知らせ機能は、先行車との車間距離が約10m以内で、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。■標識認識機能は最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の標識を認識し、マルチインフォ メーション・ディスプレーに表示します。一時停止、車両進入禁止は約60km/h以下で作動します。自車の単眼カメラから見て、車両等の陰になった道路標識は認識することができません。■オートハイビームは、約30km/h以下で走行中に作動します。ハイビームとロービームの自動切り替え 制御には状況により限界があります。つねに周囲の状況を確認し、必要に応じて手動で切り替え操作を行ってください。■イラストは機能説明のためのイメージです。■各装備・仕様の詳しい設定につきましては、P33の「主要装備」「主要諸元」をご覧ください。

すべての乗員に、ゆとりと安心をもたらす安全性能

世界基準の高度な衝突安全性能

世界の多くの国と地域で販売されるCR-Vは、衝突安全においても各国の基準にハイレベルで対応する性能を目指しました。新世代プラットフォームによる全方位に対する優れた衝撃吸収・分散構造に加え、エアバッグの展開タイミング・速度も最適化しています。



前面オフセット衝突



前面フルラップ衝突



側面衝突



後面衝突



後面衝突時頚部保護



歩行者保護(頭部)



歩行者保護(脚部)



ポール側面衝突

【その他の安全装備】

●VSA(車両挙動安定化制御システム)●EBD(電子制御制動力配分システム)付ABS ●エマージェンシーストップシグナル ●ヒルスタートアシスト機能 ●車両接近通報装置(ハイブリッド車)●LEDヘッドライト

【全タイプに採用した衝突安全装備/構造】

●1列目シート用i-サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム ●運転席用&助手席用i-SRSエアバッグシステム ●1列目シート3点式ロードリミッター付プリテンショナーELRシートベルト+1列目シートラッププリテンショナー ●1列目シート・アジャスタブル・シートベルトショルダーアンカー ●2列目シート3点式ロードリミッター付プリテンショナーELRシートベルト(左右席) ●2列目シート3点式ELRシートベルト(中央席) ●3列目シート3点式ELRシートベルト ●i-Sizeチャイルドシート対応 ISOFIXロアアンカレッジ(2列目左右席) +トップテザーアンカレッジ(2列目左右席) ●運転席/助手席シートベルト締め忘れ警告プザー&警告灯+全席シートベルトリマインダー付

主要装備

安全装備/運転支援機能

●Honda SENSING(衝突軽減プレーキ〈CMBS〉、誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、路外逸脱抑制機能、渋滞追従機能付ACC〈アダプティブ・クルーズ・コントロール〉、 LKAS〈車線維持支援システム〉、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能、オートハイビーム) ●プラインドスポットインフォメーション ●ドライバー注意力モニター ●アジャイルハンド リングアシスト ●運転席用&助手席用i-SRSエアバッグシステム ●1列目シート用i-サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム〈1~2列目シート対応〉※1 ●LEDへッ ドライト〈インラインタイプ〉(ハイ/ロービーム、オートレベリング/オートライトコントロール機構付) ●LEDアクティブコーナリングライト ●Jリズムアンダーミラー ●VSA ●EBD(電子制御制動力配分システム)付ABS ●エマージェンシーストップシグナル ●ヒルスタートアシスト機能 ●1列目シート3点式ロードリミッター付ブリテンショナー ELRシートベルト+1列目シートラッププリテンショナー ●1列目シート・アジャスタブル・シートベルトショルダーアンカー ●2列目シート3点式ロードリミッター付プリテンショナーELR シートベルト(左右席) ●2列目シート3点式ELRシートベルト(中央席) ●運転席/助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー&警告灯+全席シートベルトリマインダー付 ●i-Sizeチャイ ルドシート対応 ISOFIXロアアンカレッジ(2列目左右席)+トップテザーアンカレッジ(2列目左右席) ●電子制御パーキングブレーキ ●オートブレーキホールド機能 ●エコアシスト※2 (ECONモード、コーチング機能) ●アイドリングストップシステム※3 ●イモビライザー(国土交通省認可品) ●セキュリティーアラーム(国土交通省認可品)

快適装備/メーター

●Honda インターナビ+リンクアップフリー+ETC2.0車載器※4 ●8スピーカー(4スピーカー+4ツィーター) ●充電専用USBジャック(2列目左右) ●アクセサリーソケット (DC12V)〈フロント/センターコンソールボックス/ラゲッジルーム〉 ●マルチインフォメーション・ディスプレー※5(Turn by Turn/経過時間/燃費履歴/外気温/平均車速表示機能 など) ●Hondaスマートキーシステム(降車時オートドアロック機能/キー2個付)&パワースイッチ※6 ●左右独立温度コントロール式フルオート・エアコンディショナー(プラズマクラスター技 術搭載) ●リアエアコンアウトレット ●リアヒーターダクト ●アレルフリー高性能脱臭フィルター ●全ドアワンタッチ式パワーウインドウ(挟み込み防止機構/キーオフオペレーション 機構付) ●ワンタッチウインカー ●ヘッドライトオートオフ機能 ●車速連動オートドアロック(テールゲート連動) ●パワードアロック(テールゲート連動、運転席/助手席マスタード アロックスイッチ付) ●テレスコピック&チルトステアリング ●アクティブノイズコントロール

インテリア

●運転席8ウェイパワーシート(スライド/リクライニング/ハイト前・後) ●ドライビングポジションシステム※7 ●運転席4ウェイ電動ランパーサポート ●運転席&助手席シートヒーター ●本革巻ステアリングホイール ●アームレスト付センターコンソールボックス ●自動防眩ルームミラー ●室内確認用ミラー付サングラスボックス ●運転席用&助手席用パニティーミ ラー付サンパイザー(照明付) ●運転席&助手席シートバックポケット ●2列目6:4分割ダイブダウンシート+2列目センターアームレスト※8 ●木目調パネル(インストルメントパネル/セ ンターコンソール/ドアガーニッシュ ●1列目シート用LEDマップランプ ●1列目シート用LEDルームランプ ●2列目シート用LEDスポットランプ ●アンピエントランプ(ルーフ/1列目 フット/1列目ドアハンドル) ●ラゲッジルームランプ ●タイダウンフック(4ヵ所)※9 ●コンビニフック(ラゲッジルーム)※9 ●トノカバー※9 ●グラブレール(運転席/助手席/2列目 左右)&コートフック(2列目左右/センターピラー左右)

エクステリア/ガラス

●IRカット〈遮熱〉/UVカット/遮音機能付フロントウインドウガラス ●IRカット〈遮熱〉/スーパーUVカットフロントドアガラス ●ハーフシェード・フロントウインドウ ●高熱線吸収/UVカット機能 付プライバシーガラス(リアドア/リアクォーター/テールゲート) ●親水/ヒーテッドドアミラー ●フロントドア撥水ガラス ●熱線入りフロントウインドウ ●電動格納式リモコンカラードドアミ ラー(LEDウインカー付、オートリトラミラー) ●ドアロアガーニッシュ(クロームメッキモール付) ●導光タイプLEDポジションランプ(アクセサリーランプ機能付) ●LEDリアコンビネーショ ンランプ(ストップランプ&テールランプ) ●カラードテールゲートスポイラー ●車速連動間欠/パリアブル間欠フロントワイパー(ミスト機構付、雨滴検知式) ●ウオッシャー付間欠リアワイパー (リバース連動) ●シャークフィンアンテナ ●フロアアンダーカバー

足まわり/走行関連メカニズム

- ●18インチアルミホイール(18×7.5J)+235/60R18 103Hスチールラジアルタイヤ ●シャッターグリル ●振幅感応型ダンパー ●VGR(可変ステアリングギアレシオ)
- ●応刍パンク修理キット(スペアタイヤレス)

ハイブリッド車 専用装備

●車両接近通報装置 ●アクティブサウンドコントロール ●SPORTモードスイッチ ●FVスイッチ ●エレクトリックギアセレクター ●電動サーボブレーキシステム ●減速セレクター

ガソリン車 専用装備

●蓄冷エバポレーター ●本革巻セレクトレバー ●フロアボード ●エキパイフィニッシャー ●パドルシフト

7人乗り ガソリン車に設定

●3列目シート(3点式ELRシートベルト付)

Masterpiece 専用装備

- ●ハンズフリーアクセスパワーテールゲート(イージークローザー/挟み込み防止機構付) ●電動パノラミックサンルーフ ●本革シート※10&専用インテリア※11
- ●助手席4ウェイパワーシート(スライド/リクライニング) ●ルーフレール※12

※1 7人乗りの場合、1~3列目シート対応となります。 ※2 ハイブリッド車のみ「ティーチング機能」が装備されます。 ※3 ガソリン車のみ「オフスイッチ」が装備されます。 ※4 国土交通省、高速道路会社主導のもと、今後ETCのセ キュリティー規格変更を予定しております。詳しくは、https://www.honda.co.jp/auto-lineup/ETC/でご確認ください。 ※5 ハイブリッド車のみ「ECOドライブ ティスプレー/エネルギーフロー」が装備されます。 ※6 Hondaスマー トキーシステムは、施錠・解錠のときなどに電波を発信します。その際、植込み型心臓ベースメーカー等の医療用電子機器に影響を与える可能性があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。ガソリン車は「パワースイッチ」に 替わり「ブッシュエンジンスタート/ストップスイッチ」が装備されます。 ※7 ランパーサポートを除く。 ※8 7人乗りの場合、「2列目6:4分割タンプルシート+2列目センターアームレスト」となります。 ※9 7人乗りの場合、装備されま せん。※10.1列目シート/2列目シート方右の座面中央部および音もたわ中央部に本革を使用。それ以外の部位には合成皮革を使用しています。7人乗りの場合、3列目シートも合成皮革となります。※11.ドアライニングの一部が 合成皮革となり、専用ステッチが施されます。 ※12 4WD車には「ルーフレール」を装備しない仕様もご用意しております。 ■仕様ならびに装備は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。 ■写真は実際の色と 多少異なることがあります。 ■Honda インターナビ専用通信機器が装着されます。

主要諸元

		タイプ		1.5L DOHC VTEC TURBO										
			HYBE		EX EX·Ma					sterpiece				
		駆動方式	FF	F	F	4\	WD	F	F	41	WD			
		乗車定員		5	5名	7名	5名	7名	5名	7名	5名	7名		
車名·型	式		ホンダ・6AA-RT5☆	ホンダ・6AA-RT6☆										
トランス	ミッション			電気式無	段変速機		無段変速	オートマチ	・ック(トル:	クコンバータ	ター付)[7ス	ピードモー	-ド付]+パ	ドルシフト
寸法・重	量	全長(m)/全幅(m)/全高(m)	4.605/1.855/1.680(4WD車は1.690)											
		ホイールベース(m)					560							
		トレッド(m) 前/後				1.600	/1.615							
		最低地上高(m)	0.190	0.200	0.190	0.200		.00		210		200		210
		車両重量(kg)	1,610	1,660	1,650	1,700			1,570		1,560		1,610	1,68
		客室内寸法(m) 長さ/幅/高さ		1.970(7人非	乗りは2.520)/1.550	(7人乗りは1.520)	/1.230(電	動パノラ	ミックサン	ルーフ装値	前車は1.18	35)		
原動機		原動機型式			-H4						15B			
	エンジン	エンジン型式		LI	FB					L1	15B			
		エンジン種類・シリンダー数及び配置				水冷直列								
		弁機構			193	DOHC チェーン	駆動 吸気2	2 排気2						
		総排気量(L)		1.496										
		内径×行程(mm)		73.0×89.4										
		圧縮比	13.0 10.3											
		燃料供給装置形式	電子制御燃料噴射式(ホンダPGM-FI)											
		使用燃料種類	無鉛レギュラーガソリン											
		燃料タンク容量(L)	57 H4/交流同期電動機 —											
		電動機型式/電動機種類		_										
E能	エンジン	最高出力(kW[PS]/rpm)		140[190]/5,600										
		最大トルク(N·m[kgf·m]/rpm)		175[17.	8]/4,000		240[24.5]/2,000-5,000							
	電動機(モーター)	最高出力(kW[PS]/rpm)		_										
		最大トルク(N·m[kgf·m]/rpm)												
		·通省審査値) UC08 km/L	25.8	25.0	25.8	25.0	15.8	15.4	1:	5.0	15	5.4	15.0	14.6
		·通省審査値) WLTC: km/L	21.2	20.2	21.2	20.2								
	市街地モード(21.0	19.1	21.0	19.1	_							
	郊外モード(WI		22.1	21.6	22.1	21.6	_							
		(WLTC-H) km/L	20.7	19.8	19.8	_								
	主要燃費向上対策		ハイブリッドシ 可	直噴エンジン、可変パルプタイミング、アイドリングストップ装置、 自動無段変速機(CVT)、電動パワーステアリング										
	最小回転半径(m)					5	5.5							
	主電池	種類/個数		リチウムイス	ナン電池/72						_			
動力伝達・走行装置 変速比(前進/後退) 減速比 ステアリング装置形式				-	_		2.645~0.405 (マニュアルモード付)/1.858~1.264							
			FF車 第一:2.454(電動機駆動) 0.805 (内燃機與駆動) 第二:3.888 FF車 5.640 4WD車 第一:前2.454(電動機駆動) 0.805 (内燃機與駆動) 後2.533 第二:前3.888 4WD車 前5.640 後2.533											
			ラック・ピニオン式(電動パワーステアリング仕様)											
		タイヤ(前・後)				235/60R	R18 103H							
		主プレーキの種類・形式(前/後)	油圧式ペンチレーテッドディスク/油圧式ディスク											
		サスペンション方式(前/後)	マクファーソン式「マルチリンク式											
		スタビライザー形式(前・後)	トーション・バー式											

■燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。■WLTCモード:市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した 国際的なま行モード、市街地モード:信号や汚滞等の影響を受ける比較的低速なま行を想定。郊外モード:信号や汚滯等の影響をあまり受けないま行を想定。楽徳道路モード:高速道路等でのま行を想定。少年の東面は、自動車取得税、自動車重量税 日までの新車登録が対象。自動車税は 31日までの新車登録が対象となり、新車登録の翌年度に軽減措置が受けられます。)詳しくは販売会社へお問い CarPlay, iPhoneは、英国および他の国やで登録されたApple Inc.の商業です。■IOSは、英国およびその他の国々で登録されたCAPPa、PS (Deletooths | SE | Inc.の商業です。■VICSは(財) 道路交通情報通信システルはファーの登録機能です。■VICSは(財) 道路交通情報通信システルセンターの登録機能です。■ブラスマウスタスターフトおよびラスマクラスターの名はいませげと、一定な会社の商業です。■VICSは(財) はおまた会社の商業です。■VICSは(財) は、日本の登録機能です。■VICSは(財) は、日本の登録機能では、日本の登録を通信を表現します。

環境什様



「平成32年度燃費 基準+50%達成車|



「平成27年度燃費 基準+10%達成車 EX(FF/7人乗り)/EX(4WD)



平成27年度燃費



「平成30年排出ガス基準 75%低減レベル |認定車

「平成17年排出ガス基準 75%低減レベル | 認定車 ガソリン車

	車両型式	式		6AA-RT5	6AA-RT6	DBA-	RW1	DBA	-RW2		排出ガス		co	1.15	1.15	
基	原動機	型式		LFB	-H4	L15B			11		認定基準値	NMHC	0.025	0.013		
礎		総排気量	(L)	1.9	93	1.496				11		(単位:g/km)	NOx	0.013	0.013	
報	駆動装置	駆動方式		FF	4WD	F	F	4V	ND	1		参考			九都県市指定低公害車	
		変速機	変速機		-	CVT			環		\$75		_	の基準に適合		
		JC08€=	燃費(km/L)	25.8	25.0	15.8	15.4	15.0	14.6	境	適合騒音規制レベル			平成28年騒音規制 規制値:加速走行72dB(A)		
	消費率*1		CO2排出量(g/km)	90.0	92.9	146.9	150.8	154.8	159.0	温温	エアコン	種類/GWP值*3		HF	C-134a/1430*4	
			〈燃費からの換算値〉	70.0	72.7	140.7	150.0	134.0	137.0	情	冷媒	使用量			460g	
		参考		W #224F	n: 400 MR; 117 OF	平成27年度				報	車室内VOC			自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)		
				平成32年度燃費基準 +50%達成車		燃費基準	平成27年度燃費基準+10%達成車				鉛		自工会2006年目	標達成(1996年使用量*5の1/10)		
環				1.3070延66年		+5%達成車			Ш	環境負荷	水銀		自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止*6)			
性		WLTC	燃費(km/L)*2	21.2	20.2	ı					物質削減	六価クロム		自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
性能情報			市街地モード(WLTC-L)	21.0	19.1		-	-		Ш		カドミウム		自工会目標達	成(2007年1月以降使用禁止)	
報			郊外モード(WLTC-M)	22.1	21.6		-	_		環	リサイクル	樹脂、ゴム部品への	材料表示	樹脂、ゴ	ム部品に可能な限り全て	
			高速道路モード(WLTC-H)	20.7	19.8			_		境		リサイクルし易い村	1料*7	155115-	フェースなどの内外装部品	
			CO2排出量(g/km)	109.5	114.9					စြ		を使用した部品		71271-2	/エースなこり/トラント表前面	
			〈燃費からの換算値〉	107.5	114.7				取り		再生材を使用して	いる部品	エア	'コンダクト、吸音材		
	排出ガス	適合規制	・認定レベル	平成30年排出ガ	ス基準75%低減	平成17年排出ガス基準75%低減			組		リサイクル可能率		車金	全体で95%以上*8		
		試験モー	ř.	WLTC	モード	JC08H+JC08Cモ−ド					その他	グリーン購入法適	合状況	グ!	リーン購入法適合車	

*1 燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。*2 WLTCモード:市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国 際的な走行モード。市街地モード:信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定。郊外モード:信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定。高速道路モード:高速道路等での走行を想定。*3 GWP: Global Warming Potential (地球温暖化 「開放する」と「今日の中では、「中国では企業の必要によりな必要によりな必要をよりとなった」というでは、「中国では、日本のでは、日

寸法イメージ図 #位:mm HYBRID EX:Masterpiece(FF)

